

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 事後評価書

平成27年3月31日

計画の名称	5. 北九州学術研究都市における賑わいのあるまちづくり																
計画の期間	平成21年度 ~ 平成25年度 (5年間)	交付団体	北九州市														
計画の目標	北九州学術研究都市のまちづくりにおいて、独自の個性ある環境保全、住環境整備に取り組み、学術研究環境と自然環境・居住環境が調和した賑わいのあるまちづくりを目指す。																
計画の成果目標（定量的指標）	対象地区の道路を整備することで道路ネットワークが構築され、自然環境・居住環境が調和した良好な住宅地を供給することで、地区内人口の増加を見込む。 環境にやさしい道路整備を実現させることで、住民を主体とした道路維持活動（道路サポーター制度）の推進を図り、道路サポーター参加人数の増を見込む。																
定量的指標の定義及び算定式	対象地区内の道路整備を行うことにより、約30haの面的整備が完了し、これに伴い地区内人口及び道路サポーター参加人数の増を見込む。 地区内人口を平成20年度末比20%増を見込む。（対象地区の人口増加数を市の統計より算出） 平成25年度末の人口（人）		道路サポーター参加人数を平成20年度末比20%増を見込む。（対象地区の道路サポーター構成員の人数を本市への制度活用申請書より算出） 平成25年度道路サポーター構成員（人）		定量的指標の現況値及び目標値 <table border="1"> <tr> <th>当初現況値 (平成20年度末)</th> <th>中間目標値 中間目標値</th> <th>最終目標値 (平成25年度末)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>4039人</td> <td>-</td> <td>4847人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>110人</td> <td>-</td> <td>132人</td> <td></td> </tr> </table>	当初現況値 (平成20年度末)	中間目標値 中間目標値	最終目標値 (平成25年度末)	備考	4039人	-	4847人		110人	-	132人	
当初現況値 (平成20年度末)	中間目標値 中間目標値	最終目標値 (平成25年度末)	備考														
4039人	-	4847人															
110人	-	132人															
全体事業費	合計 (A+B+C)	2,279 百万円	A	2,235 百万円	B	0 百万円	C	44 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	1.9%							

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
学識経験者三名より成果目標の確認等を行い意見聴取を行った。	当該計画の期間終了後（平成27年3月） 公表の方法 本市のホームページに掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

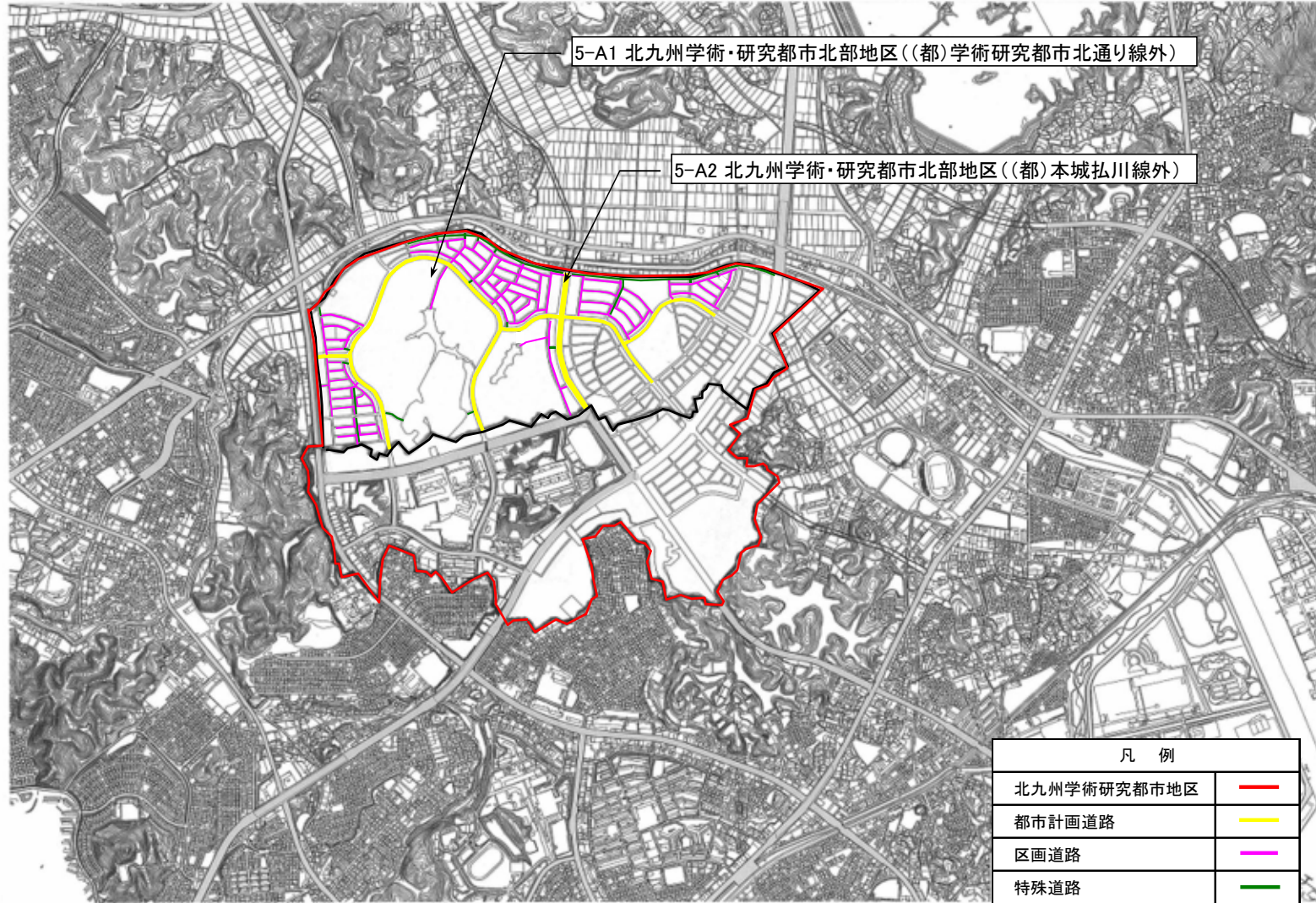
交付対象事業																	
A 地方道路整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	道路種別	省略工種	要素事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H21	H22	H23	H24	H25		
5-A1	街路	一般	北九州市	直接	-	区画	改築	北九州学術・研究都市北部地区((都)学術研究都市北通り線外)	区画整理 A=135.5ha	北九州市						2,185	
5-A2	街路	一般	北九州市	直接	-	区画	改築	北九州学術・研究都市北部地区((都)本城弘川線外)	区画整理 A=135.5ha	北九州市						50	
											合計	2,235					
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	省略工種	要素事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H21	H22	H23	H24	H25			
											合計	0					
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考					

C 効果促進事業										全体事業費 (百万円)	備考					
番号	事業 種別	地域 種別	交付 団体	直接 間接	事業 主体	省略 工種	要素事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名			事業実施期間(年度)				
										H21	H22	H23	H24	H25		
5-C1	計画・調査	一般	北九州市	直接	-	調査	環境影響評価事後調査	生活環境、自然環境事後評価	北九州市						15	
5-C2	社会実験	一般	北九州市	直接	-	社会実験	折尾二島間路線バス運行実験	折尾駅二島駅間におけるバスの運行及び検証	北九州市						9	
5-C3	計画・調査	一般	北九州市	直接		事業評価	中間事後評価	中間・事後評価	北九州市						20	※4 地域自主路線交付金
										合計					44	
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考				
5-C1	道路整備等の開発による、自然環境等への影響を調査し、自然や生活環境に配慮した環境にやさしい道路整備を実現させることで、住民が積極的に道路維持活動に参加することを促進する。															
5-C2	道路事業(5-A1, A2)と一体的にバスの運行を行うことにより学術研究都市の交通アクセス強化を図るため、バスの運行実験及び検証を行う。															
5-C3	道路整備等による影響を評価し、事業に対する住民の理解増進を図ることにより、住民との協同によるまちづくりを円滑に進める。															

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況									
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況				<ul style="list-style-type: none"> 地区内の道路整備等により面的整備が進められ、自然環境・居住環境が調和した良好な住宅地が形成されるとともに地区内人口が増加した。 自然や生活環境に配慮したやさしい道路の整備が図られたことで、住民を主体とした道路維持活動の推進が図られ、道路サポーター参加人数が増加した。 					
II 定量的指標の達成状況		指標①(地区内人口)	最終目標値	4,847 人	目標値と実績値 に差が出た要因	面的整備の進捗が進むにつれ、地区内外に公共施設や生活利便施設等が建設されてきたことで地区内人口が想定以上に増加した。			
			最終実績値	7,369 人					
		指標②(道路サポーター参加人数)	最終目標値	132 人	目標値と実績値 に差が出た要因	良好な地域社会や街並みを維持形成していくことを目的とした当事業のまちづくりガイドラインにより、住民の方の意識が高まったことで、積極的に道路維持活動に参加することを促進した結果、想定以上の参加人数となった。			
			最終実績値	208 人					
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)									
3. 特記事項(今後の方針等)									
今後も引き続き、北九州学術研究都市において、周辺の自然環境や都市環境を活かしながら、先端技術に関する教育・研究機関の集積と良好な住宅地の供給を同時に行う「複合的まちづくり」を進めていく。									

活力創出基盤整備

計画の名称	5. 北九州学術研究都市における賑わいのあるまちづくり		
計画の期間	平成21年度 ～ 平成25年度 (5年間)	交付対象	北九州市



活力創出基盤整備

計画の名称	5. 北九州学術研究都市における賑わいのあるまちづくり		
計画の期間	平成21年度 ~ 平成25年度 (5年間)	交付対象	北九州市

